

「二つの希望」

2020年01月06日

2020年とはどのような年になるのであろうか。私は、2018年8月に悪性リンパ腫を発病し、昨年2月に治療が終わり、5月に治癒したと医者から言われた。9ヶ月の苦しい闘病は終わった訳である。日常生活はできるようになったが、抗がん剤の後遺症は未だに抜け切れず、以前のような健康的な生活には至っていない。ゆっくり回復を目指していきたい。私は4月に79歳になる。後期高齢者、まさしく老人である。ホームページを書くことと市民運動は続けたい。手弁当で、懸命に働く良い仲間にあえて嬉しい限りである。時代は日本も世界も、様々な意味で荒廃しているが、人間が尊重される時代になるように、心から期待している。二つのことに期待し、私は希望を抱いている。

一つは、香港の民主化を求める運動である。香港はイギリスの統治下にあったが、1997年に中華人民共和国に返還された。50年後に統一されるが、それまでは、一国二制度の特別行政区になった。香港人が築いてきた自由と民主主義を守って、開かれた市政を発展させてきた。ところが、中国の支配権が強まり、自由と民主主義が著しく侵される状況になった。これに反発した学生と市民は、容疑者を中国本土に引き渡す「逃亡犯罪条例」廃棄や、その他、デモを取り締まった警察官の暴力についての検証、本土からの干渉を受けないで行う自由選挙を要求している。当局は「逃亡犯罪条例」は廃棄を承認したが、その他につての要望は認めないと、頑強に本土の意向を貫こうとしている。抗議デモは半年以上続き、参加人数も常に百万人を超えている。香港人の自由と民主化を求める熱意は世界の人々の驚異になっている。中国は、経済は自由主義を取っているが、政治は共産党の一方支配の凄まじい強権政治である。自由度ランキングでは180ヶ国中、177位である。共産党統治に、反対しようものなら、直ちに逮捕され、行方も分からない人もいる。香港人は、これを恐れ、飽くことのないデモを繰り返している。デモは若者たちが中心で、市民の賛同を得ている。抑え込もうとする本土の力は絶大であるが、若者たちの本土支配を跳ね除けるエネルギーは人間尊重の灯火である。日本も徐々に権力支配が強まって、自由度ランキングは67位で、下がっていく一方である。若者たちの民主化運動に私は希望を見る。

二つ目の希望は、温暖化への若者たちの目覚めと主張である。温暖化によって、地球は痛めつけられている。太平洋の温度上昇によって、台風は年々大型化している。昨年二つの台風で100人以上の方が亡くなり、被害も甚大である。北極の氷が解け、海面は上昇している。南の島は水没の危機に晒され、水の都ベネチアでは道路が海水で溢れている。アメリカ、ブラジル、オーストラリアの森林火災は、手が付けられないほどの大火になっている。砂漠化が進み、シベリヤの永久凍土は溶け続けている。これらの現象は温暖化によると明白だが、米国のトランプ大統領は、温暖化は「フェイク」と言っていて、「アメリカファースト」の経済成長を目指している。温暖化阻止のために、大きな国際会議が持たれているが、利害が錯綜し、妙案を出せないでいる。国連本部で開かれた「気候行動サミット」での、16歳のグレタ・トゥーンベリさんの「人々は死んでいます。生態系は崩壊しつつあります。私たちは大量絶滅の始まりにいます。なのに、あなた方が話すことは、お金のことや、永遠に続く経済成長というおとぎ話ばかり。よく、そんなことが言えますね」というスピーチは圧巻だった。トランプ大統領もブラジルのジャイル・ボルソナロ大統領も彼女を小ばかにしているが、世界中の若者たちは彼女に押され、立ち上がっている。将来は若者が作る。若者たちが主張し行動する姿に、私は大きな希望を寄せている。